

大学等名	新潟食料農業大学
プログラム名	新潟食料農業大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ プログラム履修必須の有無

令和10年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 修了要件

科目「データサイエンス入門(2単位)」および「データサイエンス演習(2単位)」の単位を修得すること。

⑤ プログラム構成科目

必要最低科目数・単位数	2	科目
	4	単位

		モデルカリキュラム対応状況																					
授業科目		単位数	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	その他
(1)必須科目(プログラムを修了するために必ず履修しなければならない科目)	データサイエンス入門	2	○	○	○	○	○	○				○	○										
	データサイエンス演習	2							○	○	○												
※卒業要件上の必修科目とは必ずしもイコールではない																							
(2)選択必須科目(プログラムを修了するために一定の条件のもと履修しなければならない科目)																							
(3)選択科目(プログラムを構成する科目のうち「必須科目」「選択必須科目」のいずれにも該当しない科目)																							

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	授業に含まれているスキルセットのキーワード
----------------	-----------------------

(1)現在進行中の社会変化 (第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット「データサイエンス入門」 ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「データサイエンス入門」 ・第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会「データサイエンス入門」
	1-6	・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど)「データサイエンス入門」
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「データサイエンス入門」 ・1次データ、2次データ、データのメタ化「データサイエンス入門」
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「データサイエンス入門」
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析:予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など「データサイエンス入門」 ・データ可視化:複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など「データサイエンス入門」
	1-5	・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「データサイエンス入門」
(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)「データサイエンス入門」 ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「データサイエンス入門」 ・データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「データサイエンス入門」
	3-2	・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)「データサイエンス入門」
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数)「データサイエンス演習」 ・データの分析(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「データサイエンス演習」 ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「データサイエンス演習」 ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値「データサイエンス演習」 ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)「データサイエンス演習」
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)「データサイエンス演習」 ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)「データサイエンス演習」
	2-3	・データの取得(機械判断可能なデータの作成・表記方法)「データサイエンス演習」 ・データの集計(和、平均)「データサイエンス演習」 ・データの並び替え、ランキング「データサイエンス演習」

⑦プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

データを処理・分析し、データから有用な情報を取り出す方法として、統計学と情報学の分野を融合的に扱うことを基本としたデータサイエンスのリテラシーレベルの内容を身に着けることができる。また、①社会におけるデータ・AIの利活用例の理解、②データを読み、説明するデータリテラシーの技術の理解と実践、③データ・AI利活用における留意事項を理解し、応用できる能力を身に付けることができる。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和6年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

[illegible]

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	¥29	人
(非常勤)	¥39	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

¥1	人
----	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	斎藤 順
(役職名)	食料産業学部 食料産業学科 ビジネスコース 講師

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	データサイエンス教育ワーキンググループ
------	---------------------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	教学マネジメント推進センター運営委員会規程
------	-----------------------

⑥ 体制の目的

本学の「教学マネジメント推進センター運営委員会」は、学修成果や教育成果の把握・可視化や教育活動の改善ならびに質の向上を支援することを目的とした組織であり、本プログラムを改善・進化させるための「データサイエンス教育ワーキンググループ」にて検討した内容および教育効果を測定し、データの収集・分析、自己評価を行う。

また「データサイエンス教育ワーキンググループ」には、本学の教育課程編成および授業実施を所掌している教務委員会の委員長も構成員に含めている。さらに、カリキュラム上の科目配置の変更や、授業の実施方法の改善といった教務上の実務的な対応を行う学務部教務課の責任者(課長)も構成員に含め、学修・教育にかかる部署が連携して本プログラムを改善・進化させるよう学内体制を整備している。

⑦ 具体的な構成員

【データサイエンス教育ワーキンググループ構成員】※2026年5月12日に学内にて承認

- ワーキンググループ長 植村 邦彦(兼 教務委員会・委員長)
- プログラム運営責任者 斎藤 順(食料産業学部 食料産業学科 ビジネスコース 講師)
- 学務部・部長 江口 五郎
- 学務部教務課・課長 野水 清秀

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	(様式2より自動転記)
令和8年度予定	5%
令和9年度予定	9%
令和10年度予定	15%
令和11年度予定	22%

具体的な計画

当該科目は、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の認定を目指して令和5年度(2023年度)に行われたカリキュラム改訂にて、新規に開設された科目である。また2年次配当科目および3年次配当科目として配置したため、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」は、令和6年度(2024年度)に開設し、令和7年度(2025年度)に修了要件を満たした修了者を排出した。令和5年度(2023年度)以前に入学した学生には、該当科目を履修した学生がおらず、先輩からの履修相談・アドバイスをもらうことができなかったためプログラム初年度は履修者数を増やすことができなかった。今後は、履修登録期間内にて、プログラム受講者からの履修相談・アドバイスを行い、プログラム受講者数を継続的に伸ばしていく予定である。また、当該科目の内、「データサイエンス入門」は全学共通の選択科目となっているが、必修科目化を視野に入れた協議・検討も行うことで、プログラム受講者数の拡大を図る予定である。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本学は単一学部・学科大学のため、全学生が本プログラムを受講することができる。そのため、本プログラムの受講を希望する学生全員が受講可能な体制となっている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

新年度4月に開催する全学年の「オリエンテーション」時に、本プログラムの特徴や受講メリットの説明を行う。また、本プログラムを履修・修了した先輩学生が、後輩へ履修相談・アドバイスを行う「履修なんでも相談」イベントを開催し、履修促進を図る。さらに「オープンキャンパス」時の学修・学びの紹介ブースでも、本プログラムの特徴や受講メリットを訴求し、本学受験を希望する高校生の内から、本プログラム履修への意識づけを図る。また令和9年度(2027年度)より、新たに学内に『食と農のデータサイエンスビジネス』プログラムを開設し、現存する様々な食関連のオープンデータを使って食料消費の実態を解析・考察する。そのプログラム受講者に、本プログラムを併修する旨を訴求し、履修促進を図る。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

履修登録期間中に「履修なんでも相談」イベントを開催し、本プログラムの履修サポートを行う。さらに「履修なんでも相談」イベントには、教務課スタッフに加え学生スタッフも配置し、学生目線による履修アドバイスも行う。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本学では、学生からの時間外の質問対応や学修指導を行う「オフィスアワー」を全教員が設定している。その「オフィスアワー」は、学内掲示に加え、全学生への学内学修システム内に常設掲示することにより、学生への周知・徹底を図っている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 データサイエンス教育ワーキンググループ

(責任者名) 植村 邦彦
(役職名) ワーキンググループ長 兼 教務委員会・委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		本プログラムの構成・要件科目の内、「データサイエンス演習」科目はビジネスコースの3年次・必修科目として配置しているため、ビジネスコースに配属されている学生全員が履修(2025年度:25名、2026年度:28名)しており、修得率はほぼ100%である。その半面、他コース(アグリコースおよびフードコース)からの履修者数が少ないことが課題である。 また「データサイエンス入門」科目は、2年次・全コース共通の選択科目として配置しているため履修者数は多い(2025年度:51名、2026年度:71名)が、その反面、修得率は94.2%となっている。 今後は、「データサイエンス演習」科目の他コース(アグリコースおよびフードコース)からの履修者数を増やす取り組みはもちろん、将来的には必修科目化を見据えた検討が必要であると考える。
学修成果		「データサイエンス入門」は、中間・期末の課題レポートにより学生の理解度を把握し、合格点をとった学生について単位を与えている。 「データサイエンス演習」は、講義内で行う課題により学生の理解度を把握し、合格点をとった学生について単位を与えている。
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度		【2025年度「データサイエンス入門」の授業評価アンケート結果】 質問① ・授業を履修した結果、新しい知識やものの見方、考え方などを得ることができたか？ 大変良くてきた&できたの回答比率 100% 質問② ・授業の到達目標に対して、どの程度、到達できたか？ 大変良くてきた&できたの回答比率 94.9% 【2025年度「データサイエンス演習」の授業評価アンケート結果】 質問① ・授業を履修した結果、新しい知識やものの見方、考え方などを得ることができたか？ 大変良くてきた&できたの回答比率 91.7% 質問② ・授業の到達目標に対して、どの程度、到達できたか？ 大変良くてきた&できたの回答比率 91.7% 授業評価アンケート結果から、本プログラム当該科目の理解度が高い結果が示された。今後、「データサイエンス演習」科目を「データサイエンス入門」科目と同程度の回答比率に高められるような授業内容のブラッシュアップを行う予定である。
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度		本学のデータサイエンス系科目は、主にビジネスコースの学生が履修しているが、本プログラムの構成・要件科目の内、「データサイエンス入門」科目は、2025年度の履修者52名の内訳がビジネスコース:22名(42.3%)、アグリコース:20名(38.5%)、フードコース:9名(17.3%)であった。このことから本プログラムは、ビジネスコースの学生から、一定程度、他コース(アグリコースおよびフードコース)の学生にも推奨されているものと考える。 今後は、本プログラム修了者より、後輩への推奨の促進が必要と考える。
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況		全学年の「オリエンテーション」時に、本プログラムの特徴や受講メリットの説明を行い、受講促進を図った。併せて、履修登録期間中に「履修なんでも相談」イベントも開催し、受講の促進を図った。今後は、「オリエンテーション」や「履修なんでも相談」イベント時に、本プログラム修了者を呼んで、本プログラムの受講メリットなどを後輩に伝えるよう計画している。 さらに中期的な視野にたち、本プログラムの授業評価アンケート結果の集計・分析を行い、将来的な要件科目の必須化も検討する。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムの修了者が2026年度に卒業した後、卒業生調査を実施し、卒業生（修了生）の活躍状況を把握するよう計画している。併せて、進学先・就職先の企業・団体に対し、企業調査も実施する予定である。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本プログラムの修了者が2026年度に卒業した後、就職先の産業界の企業にアンケートを実施し、本プログラムの講義内容等について意見を収集する。その意見や集計結果をもとに、データサイエンス教育ワーキンググループにて、プログラム内容やシラバス内容の改善につなげていく予定である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		本教育プログラムを構成する科目「データサイエンス入門」の講義内容については、身近な表計算ソフトやRを用いて量的データを解析し、傾向を抽出するという実践的な演習を通じて、千変万化である食のニーズの外観をとらえることで、学生の持つ主観的な食への関心を客観的なデータによって補正し、学ぶ楽しさや客観的なデータによる裏づけの手法を身に着け、さらには知的好奇心を刺激するように講義を展開する。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		基本的に用いるデータはサンプルよりもE-statなどからリアルなデータを活用することを前提としつつ、実際に捕捉されるデータが変われば柔軟に対応していく。生成AIなどによりショートカット可能な領域は拡張されているが、そこをブラックボックス化したまま学ぶのではなく、基礎としてアルゴリズムを理解させることで、新しい技術で変化したとしても対応可能なように講義内容を設計する。

課程	共通課程		科目群	教養科目群	
授業科目	データサイエンス入門 ２０２５年度（令和７年度）		科目コード	1110067	
代表教員	斎藤 順		成績責任者教員	斎藤 順	
担当教員	斎藤 順				
実務家教員担当科目	-	授業科目に関連する 担当教員の実務経験	該当しない		
配当年次	2年		必修・選択区分	選択	
配当学期	後期	単位数	2単位	授業回数	15
アクティブラーニング	-				
開講キャンパス	新潟キャンパス				

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定方針）との関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
食料産業を理解することができる	新たなビジネス創造を指向することができる	諸課題を解決する意欲を有することができる	地域の活性化や社会の発展に寄与することができる	他者と協力して物事に取り組み、成果を導くことができる
◎	○			○

授業概要	デジタル化により社会は大きく変化しています。そのデジタル社会の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基本知識と技術の習得は、消費者の行動把握や企業の戦略に不可欠なものとなってきました。単に作業をコンピューターで処理するだけでなく、データの収集、整理、分析、可視化まで目的に応じて自動化し、機械学習によって問題解決の方法を導き出すことが可能な時代になってきました。このような時代の変化を鑑みて、本教育ではデータサイエンスの全体を理解できる人材育成が必要です。そこで、本科目ではデータを活用する上での基礎的な知識と技術の習得を目指す。
到達目標	Excelの習熟と統計的な分析の基本の習得を通して、専門領域・科目を自律的に学習していくための基礎スキルをマスターすることを目的とする。

回数	授業計画	担当教員
1	ガイダンス	斎藤 順
2	RESASを使ったデータ分析の基礎	斎藤 順
3	RESAS 地域の特徴をつかむ演習	斎藤 順
4	e-statのデータと利用方法	斎藤 順
5	食料消費に関する統計分析入門	斎藤 順
6	表計算ソフトを用いたデータの加工と集計	斎藤 順
7	統計基礎 データの見方	斎藤 順
8	統計基礎 データの解釈と表現	斎藤 順
9	データ分析演習 多変量解析の方法	斎藤 順
10	データ分析演習 多変量解析で見る地域と食	斎藤 順
11	仮説とは何か、検定とは何か	斎藤 順
12	データ解釈の基礎知識	斎藤 順
13	データ解釈演習	斎藤 順
14	データの可視化と表現方法	斎藤 順
15	市場規模を探る演習	斎藤 順

評価方法	課題レポートによる評価（中間50%、期末50%）
教科書（必ず購入する書籍）	教科書は指定しない。
参考書 等	適宜授業で照会する。

事前学習			
事前学習時間（分）	120分	事前学習内容	予習内容は適宜指定する
事後学習			
事後学習時間（分）	120分	事後学習内容	授業範囲について内容を振り返りながら、再度実践する。
備考	毎回パソコンを使います。充電やアップデートは事前に済ませておいてください。		
担当教員連絡先メールアドレス	jun-saito@nafu.ac.jp		

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定方針）】	
本学を卒業するために身につけるべき力(知識・理解・技能・姿勢)を定める基本的な方針	
知識・理解	食品や農産物に関わる専門知識を有し、それらの生産から加工、販売までを一連のフードチェーンとして捉え、成長産業としての食料産業を理解することができる。
思考・判断	修得した専門知識に基づき、食料産業において、マーケットインの発想をもって、新たなビジネス創造を指向することができる。
関心・意欲	国内外の食料、農業、経済、環境をはじめとする社会の情勢に関心をもち、諸課題を解決する意欲を有することができる。
態度	食料・農業に関する新たな価値を創出し、地域の活性化や社会の発展に寄与することができる。
技能	サイエンス・テクノロジー・ビジネスの能力を兼ね備え、自らの思考・判断の経緯や結果を論理的に説明でき、他社と協力して物事に取り組み成果を導くことができる。

課程	科目群	履修区分等				1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共通課程	教養科目群	必修				総合英語Ⅰ	2	総合英語Ⅱ	2	総合英語Ⅲ	2		
						からだと健康 ※	2	からだと健康 ※	2				
						スポーツ実践 ※	1	スポーツ実践 ※	1				
						コンピュータリテラシーⅠ	2	コンピュータリテラシーⅡ	2				
						経済学の基礎	2						
		選択				新潟と地域社会	2	農業・農村の暮らし	2				
						食文化概論	2	コミュニケーション論	2		海外研修	1	
						法学	2	芸術	2		データサイエンス入門	2	
						日本語表現法	2	心理学概論	2		英語プレゼンテーション演習	2	
						数学入門	1	生物学の基礎	1		TOEIC演習	2	
						生物学入門	1	化学の基礎	1				
						化学入門	1	日本語Ⅰ	2	日本語Ⅱ	2	英語PBL演習	2
						物理学入門	1	日本語Ⅱ	2	日本語Ⅲ	2		
		選択（自由科目）				実践食育論「自炊塾」	2						
	基礎科目群	必修				食料産業概論	2	生物資源循環論	2				
						食料産業基礎実習	2	食料産業基礎演習	2				
								植物生理・生態学概論	2				
								微生物学概論	2				
								経営学基礎	2				
								簿記・会計学	2				
								食品学概論	2				
		選択											
	共通科目群	必修				基礎ゼミⅠ	1	基礎ゼミⅡ	1				
						環境科学概論	2	フードサービス論	2				
						栽培学概論	2	おいしさの科学	2				
								地域活性化論	2				
								食品流通論	2				
								企業イノベーション論	2				
								ビジネスプランニングⅠ	2				
		選択				インターンシップⅠ	1	キャリアプランニングⅠ	2				
コース課程	専門基礎科目群	アグリ	園芸科学	コース必修				ICT農業概論	2				
			持続栽培学					肥科学	2				
			農業生物学					植物病理学	2				
			共通	選択/自由				作物・果樹生産科学基礎実験・実習	1				
								樹木学特別実習	1				
		フード	食品科学	コース必修				食品微生物学	2				
			食品プロセス学					食品化学	2				
			共通					食品安全学	2				
		ネビシ	地域活性	コース必修				食品製造学	2				
			事業開発					一般化学	2				
		基礎専門選択	アグリ/園芸科学	選択				有機化学	1				
			アグリ/持続栽培学					生化学	2				
			ビジネス/地域活性					分子生物学	1				
			ビジネス/事業開発					食品生産科学基礎実験・実習	1				
	専門科目群	アグリ	園芸科学	コース必修				化学実験	1				
			持続栽培学					簿記・会計学演習	2				
			農業生物学					マーケティング論	2				
			共通					植物遺伝学	2				
		フード	食品科学	コース必修				農業概論	2				
			食品プロセス学					食料経済学	2				
			共通					ビジネス統計	2				
				選択/自由									
		ビジネス	地域活性										
			事業開発	コース必修									
			共通										
		専門選択	アグリ/持続栽培学	選択									
			アグリ/農業生物学										
			フード/食品科学										
			フード/食品プロセス学										
			ビジネス/地域活性										
			ビジネス/事業開発										
	コース課程	アグリ	園芸科学	コース必修				花き・野菜園芸学	2				
			持続栽培学					果樹・鑑賞園芸学	2				
			農業生物学					植物育種学	2				
			共通					有機栽培論	2				
		フード	食品科学	コース必修				栽培科学実験・実習	4				
			食品プロセス学										
			共通										
				選択/自由									
		ビジネス	地域活性										
			事業開発	コース必修									
			共通										
		専門選択	アグリ/持続栽培学	選択									
			アグリ/農業生物学										
			フード/食品科学										
			フード/食品プロセス学										
			ビジネス/地域活性										
			ビジネス/事業開発										
	コース課程	アグリ	園芸科学	コース必修									
			持続栽培学										
			農業生物学										
			共通										
		フード	食品科学	コース必修									
			食品プロセス学										
			共通										
				選択/自由									
		ビジネス	地域活性										
			事業開発	コース必修									
			共通										
		専門選択	アグリ/持続栽培学	選択									
			アグリ/農業生物学										
			フード/食品科学										
			フード/食品プロセス学										
			ビジネス/地域活性										
			ビジネス/事業開発										

「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を受講する学生は、以下の2科目を履修・修了する必要があります。
なお該当する科目は、本学の卒業単位認定科目です。

- ①「データサイエンス入門」
2年・後期・選択科目
- ②「データサイエンス演習」
3年・後期・ビジネス必修科目

新潟食料農業大学教学マネジメント推進センター運営委員会規程

(設置)

第1条 新潟食料農業大学教学マネジメント推進センター規程第8条に基づき、新潟食料農業大学（以下「本学」という。）に教学マネジメント推進センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、教学マネジメント推進センターが本学教育プログラムの円滑な運営・実施ならびに改善・向上を推進するにあたり、必要な事項を調査、審議または処理することを目的とする。

(所掌事項)

第3条 委員会の所掌事項は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 教育課程の編成に関する全学的な方針に関する事項
- (2) 学修成果や教育成果の把握・可視化に関する事項
- (3) F D活動・S D活動の推進に関する事項
- (4) 教学I R活動の推進に関する事項
- (5) その他教学マネジメントに係る重要事項に関する事項

(組織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教学マネジメント推進センター長
- (2) 教学マネジメント推進センター副センター長
- (3) 副学長
- (4) 学部長
- (5) 研究科長
- (6) 学科長
- (7) 専攻長
- (8) コース長
- (9) 教務委員長（学部・大学院）
- (10) 入試・広報委員長（学部・大学院）
- (11) F D・S D委員長（学部・大学院）
- (12) 事務局長
- (13) 事務局学務部長

(14) その他、委員会が必要と認めた者

(任期)

第5条 委員の任期は2年とする。ただし再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長および副委員長)

第6条 委員会に、委員長および副委員長を置く。

2 委員長は、教学マネジメント推進センター長をもって充てる。

3 副委員長は、教学マネジメント推進センター副センター長をもって充てる。

4 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長が欠けたとき、または事故があるときはその職務を代行する。

(会議)

第7条 委員会は、委員の半数以上の出席をもって成立する。

2 議事の議決は、出席した委員の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは委員長の決するところによる。

(合同会議)

第8条 委員会は、審議事項が他の委員会の所掌事項と密接な関係をもつと判断したときは、該当する他の委員会と合同して会議等を開くことができる。

(委員以外の者の出席)

第9条 委員会は、必要があると認めたときは、委員以外の者の出席を求め、説明または意見を聞くことができる

(専門部会)

第10条 委員会は、必要があると認めたときは、委員会の中に専門部会を置くことができる。

2 専門部会の部会長は、本学専任教員の中から委員長が委嘱する。

3 専門部会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

(報告)

第11条 委員長は、委員会の審議が終了したときは、その結果を学長に報告する。

2 学長は、学則第9条で定める事項の審議結果の決定にあたっては、総務会の議を経なけ

ればならない。

3 学長は、学則第10条で定める事項の審議結果の決定にあたっては、教授会の議を経なければならない。

4 学長は、前項の事項のほか、審議結果について教授会に意見を求めることができる。

(事務)

第12条 委員会の事務は、事務局総務部が行う。

(改廃)

第13条 この規程の改廃は、総務会の議を経て学長が行う。

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員会が別に定める。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2026年4月1日から施行する。

新潟食料農業大学教学マネジメント推進センター運営委員会規程

(設置)

第1条 新潟食料農業大学教学マネジメント推進センター規程第8条に基づき、新潟食料農業大学（以下「本学」という。）に教学マネジメント推進センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、教学マネジメント推進センターが本学教育プログラムの円滑な運営・実施ならびに改善・向上を推進するにあたり、必要な事項を調査、審議または処理することを目的とする。

(所掌事項)

第3条 委員会の所掌事項は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 教育課程の編成に関する全学的な方針に関する事項
- (2) 学修成果や教育成果の把握・可視化に関する事項
- (3) F D活動・S D活動の推進に関する事項
- (4) 教学I R活動の推進に関する事項
- (5) その他教学マネジメントに係る重要事項に関する事項

(組織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教学マネジメント推進センター長
- (2) 教学マネジメント推進センター副センター長
- (3) 副学長
- (4) 学部長
- (5) 研究科長
- (6) 学科長
- (7) 専攻長
- (8) コース長
- (9) 教務委員長（学部・大学院）
- (10) 入試・広報委員長（学部・大学院）
- (11) F D・S D委員長（学部・大学院）
- (12) 事務局長
- (13) 事務局学務部長

(14) その他、委員会が必要と認めた者

(任期)

第5条 委員の任期は2年とする。ただし再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長および副委員長)

第6条 委員会に、委員長および副委員長を置く。

2 委員長は、教学マネジメント推進センター長をもって充てる。

3 副委員長は、教学マネジメント推進センター副センター長をもって充てる。

4 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長が欠けたとき、または事故があるときはその職務を代行する。

(会議)

第7条 委員会は、委員の半数以上の出席をもって成立する。

2 議事の議決は、出席した委員の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは委員長の決するところによる。

(合同会議)

第8条 委員会は、審議事項が他の委員会の所掌事項と密接な関係をもつと判断したときは、該当する他の委員会と合同して会議等を開くことができる。

(委員以外の者の出席)

第9条 委員会は、必要があると認めたときは、委員以外の者の出席を求め、説明または意見を聞くことができる。

(専門部会)

第10条 委員会は、必要があると認めたときは、委員会の中に専門部会を置くことができる。

2 専門部会の部会長は、本学専任教員の中から委員長が委嘱する。

3 専門部会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

(報告)

第11条 委員長は、委員会の審議が終了したときは、その結果を学長に報告する。

2 学長は、学則第9条で定める事項の審議結果の決定にあたっては、総務会の議を経なけ

ればならない。

3 学長は、学則第10条で定める事項の審議結果の決定にあたっては、教授会の議を経なければならない。

4 学長は、前項の事項のほか、審議結果について教授会に意見を求めることができる。

(事務)

第12条 委員会の事務は、事務局総務部が行う。

(改廃)

第13条 この規程の改廃は、総務会の議を経て学長が行う。

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員会が別に定める。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2026年4月1日から施行する。

大学等名	新潟食料農業大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	新潟食料農業大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）	申請年度	令和8年度

取組概要

【プログラムの目的】

本学学生が様々なデータを理解・処理・分析し、データから有用な情報を取り出すデータサイエンスの基礎を学び、自身でコンピューターを利用して必要な結果を作成できること。

【プログラム受講に伴い身に付けられる能力】

①データサイエンス入門 科目

データサイエンスは課題発見や課題解決にデータを活用するというビジネス力が必要な分野であり、本科目ではデータを活用する上での基礎的な知識と技術の修得を目指す。具体的には、Excelの習熟と統計的な分析の基本の修得を通して、専門領域・科目を自律的に学習していくための基礎スキルを身に付けることができる。

②データサイエンス演習 科目

食料産業に関連する様々なデータを用いて、実際に分析を行いながら分析スキルの向上を目指す。具体的には、課題を設定して適切にデータを収集し成形を行う方法や、経済学および経営学の視点で結果の解釈を行うスキルを養い、ビジネスに活用できる実践力を身に付けることができる。

【プログラム開講科目】

- ①データサイエンス入門（2年次・後期・選択科目・2単位）
- ②データサイエンス演習（3年次・後期・ビジネスコース必修科目・2単位）

【プログラムの受講対象】

全学部・全学科（※2023年度〔令和5年度〕以降の入学学生）

【プログラムの修了要件】

科目「データサイエンス入門(2単位)」および「データサイエンス演習(2単位)」を修得すること

■■「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の設置の経緯■■

本学では、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の認定を目指して、令和5年度（2023年度）に行われたカリキュラム改訂にて、『データサイエンス入門』科目および『データサイエンス演習』科目を新規開講し、データサイエンス教育を実施している。

当該科目は、2年次配当科目および3年次配当科目として配置したため、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」は、令和6年度（2024年度）に開設し、令和7年度（2025年度）に修了要件を満たした修了者を輩出した。